

## ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2017年10月23日

【2017年10月14日～2017年10月20日までの推移】

### 【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルで下落する一方、ドル高・円安が進行したことを受けて対円では横ばいとなりました。また、2年国債金利は小幅に低下しました。

18日(現地、以下同じ)にブラジル連邦議会の下院委員会は、テメル大統領訴追の承認について、起訴を却下すべきとの報告を39対26の賛成多数で可決しました。これを受けて、年金改革法案の審議再開への期待感が高まり、金利は低下しました。

為替につきましては、米上院が予算決議案を可決したことや、次期FRB(米国連邦準備制度理事会)議長が金融政策正常化に積極的な人物となるとの思惑から、米ドルが買われ、ブラジル・レアルは下落しました。

経済指標では、インフレ率(IPCA-15)がほぼ市場予想通りの結果となる一方、経済活動指数は市場予想を下回りましたが、いずれも金融市場への影響は限定的でした。

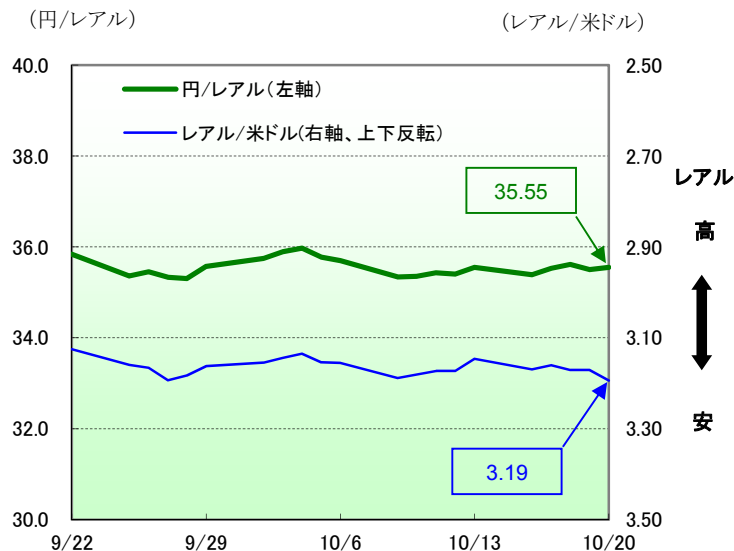
### 【2】今週の見通し

今週はテメル大統領訴追について下院本会議で採決が行われる予定となっています。下院委員会と同様に本会議においても、大統領の起訴は却下される見込みとなっており、年金改革法案の審議再開への期待感は一層と高まるものと考えられます。

一方、先週の下院委員会での採決では、前回7月に行われた同様の採決に比べて、大統領への支持票がわずかに減少しており、大統領の求心力低下が進んでいることが懸念されます。今後の構造改革や財政再建の成否を占う上で、本会議での採決には引き続き大きな注目が集まります。

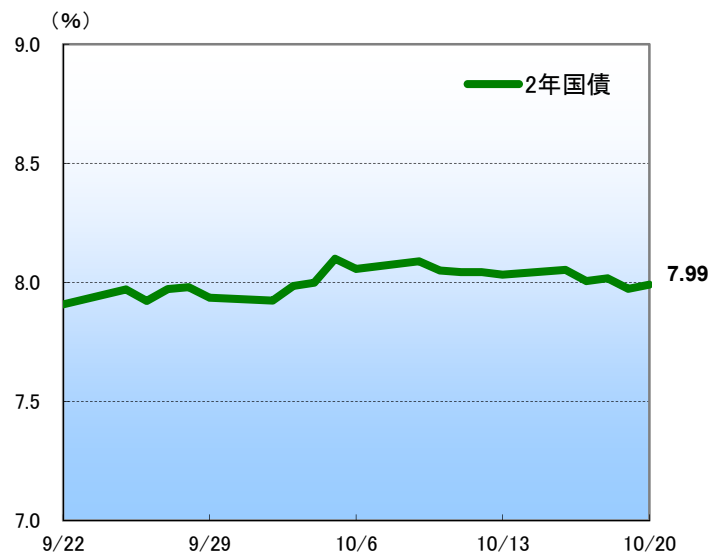
また、今週はCopom(金融政策委員会)が開催され、25日に政策金利の発表が予定されています。市場予想は0.75%ポイントの利下げとなっており、前回のCopomにおいて言及されたように、利下げ幅は縮小される見込みです。

【ブラジル・レアル 為替推移】(2017年9月22日～2017年10月20日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】(2017年9月22日～2017年10月20日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management